

# 川崎支部研究だより

2022年7月吉日 第1号

## 川崎支部授業研究会

7月6日（水）に、御幸小学校にて川崎支部授業研究会が行われました。子供たちが夢中になって運動に取り組む姿が見られました。授業の準備をしてくださった御幸小学校の職員の皆様、お忙しい中参観いただいた皆様、ありがとうございました。

授業後の研究協議では、活発な意見交換がなされ、研究を深めることができました。そして、講師の植田基之先生からは、授業をするうえでの貴重な助言をいただくことができました。

以下、多くのご意見、ご感想をいただいた中で、主だったものをいくつか紹介いたします。

**研究協議** ○感想や意見 ☆質問 ◎質問に対する回答・授業者(支部常任委員)より

《1年生 走・跳の運動遊び「跳の運動遊び」～我ら御幸のジャングル探検隊～》 粕谷 祐介 先生

### 活動の場について

- それぞれの場において、前時までの工夫が掲示資料を通して分かりやすくなっていた。
- 安全面への指導が徹底していた。
- 「より遠くへ跳ぶ」ことに重きを置いた場を、よりいっそう充実させたほうがよかったのではないか。
- それぞれの場において、めあて（目指す子供の姿）がよりはっきりしているとよかった。  
→工夫の視点（何をどのように工夫するか）も明確になるとよいのではないか。



### 友達同士・教師とのかかわりについて

- グループ活動の人数は、ちょうどよかった。
- 教師が場に入って子供と交流することで、目指す動きや価値を引き出し、共有していた。
- オノマトペを使った指導は効果的だが、子供により浸透させるには、視覚化するなどのさらなる手立てへの工夫が必要ではないか。



### ICT 機器の活用について

- 1年生の授業ということもあり、教師が撮影して子供と情報共有するという今回の活用法は、適していた。

**指導講評 講師：植田 基之先生（小学校体育研究会助言者、柿生小学校総括教諭）**

**動きの工夫について**

- 今回の学習の場は、子供にとっては「遊園地」的なものだったのではないかな。  
…準備がしっかりされているだけに、子供にとって工夫の余地が少なかった。  
…今回子供がしていた工夫は、「〇人で一緒に」というものが大半であった。
- 子供が工夫しだすのは、「活動に不自由さを感じたり、満足しなくなったりしたとき」。  
…シンプルかつ子供が活動に不自由さを感じそうな場をあえて作ることで、子供の思考をさらに広げることができるのではないかな。
- 今後ねらえる工夫
  - ・場の工夫：ケンステップの位置を子供に変えさせる。「思い切り走り、思い切り跳ぶ」場の設定。
  - ・動きの工夫：跳ぶ向きや姿勢、踏み切る足など。

**教師と子供とのかかわり**

- 教師は、子供に求める動き（目指す子供の姿）を明確にもっておく必要がある。
- いつ、どんなタイミングで、どのような言葉をかけるかは、教師が慎重に判断することが大切。  
…今回の授業では、教師が積極的に言葉かけを行い、動きのねらいや工夫の広がりを見つけ、広めていた。今後はもう少し子供に委ねていくと、子供から自発的に跳び方や順番などの話合いを通して、思考が広がったり深まったりしていくのではないかな。

**ICT 機器の活用について**

- 生涯にわたって体育やスポーツに親しむために必要なのは、「する」「見る」「支える」「知る」の4つであり、決して「する」ことだけではない。  
…「見る」ことが得意だということも、体育が得意であるという位置づけをしていきたい。
- 「見る」ことについては、見る場所や自分と友達の動きの違い、友達の動きの良さなどについてしっかりと観察できるよう、子供の目を養うことが大切。  
…ICT 機器だけでなく、「直接見る」ことに対する価値づけも大切にしてほしい。
- ICT 機器の活用については、どんな目的で、どんなポイントを見ることや、どのように活用していくかなどを、子供自身が考えられるようにしていくことが大切。  
…子供にとっての、ICT 機器活用の「必要感」を育むことにつながる。

担当・文責：渡田小学校 福田 竜慈